

2020年3月期第3四半期 決算説明会 Q&Aサマリー

Q1: 新型コロナウイルスによる御社事業への影響について教えてください。

中国の武漢には営業事務所があります。現時点では業績に重大な影響を与えることはないと考えて

A1: おりますが、万一、新型コロナウイルスの感染拡大が中国あるいは世界各国の経済活動、企業活動に支障を来たす状況になった場合は業績に影響を与える可能性があります。

Q2: T&M事業の第3四半期の受注が好調だった理由を教えてください。併せて営業利益率が高かった理由を教えてください。

A2: 旺盛なアジアの5G端末開発投資を獲得したことにより受注が好調でした。収益性が高い5G関連製品の販売比率が増加し営業利益率が高くなりました。

Q3: 地域別売上高の予想を修正した理由を教えてください。

アジアと日本は旺盛な5G開発需要により売上がこれまでの想定を上回る見込みです。

A3: 米国は主としてミリ波による5G展開を進めていますが、技術的課題が多く、チップセット開発の次に来る端末開発需要が本格化しておらず、売上が想定を下回る見込みです。

Q4: 3GPP Rel.16に関連し無線関連測定の他にどのような測定需要を想定していますか？

A4: Rel.16では無線関連測定の他に有線ネットワーク側での遅延時間測定に関する需要が想定されません。

Q5: 5Gモバイル計測市場の規模（ピークの高さ）をLTEの7割程度から9割程度に変更する理由を教えてください。

A5: 中国端末メーカーのLTEモバイル計測需要は製造用が主でしたが、5Gでは積極的な開発を展開しており開発用のモバイル計測需要が当社の想定より大きくなっており市場規模（ピークの高さ）を変更しました。

Q6: 今回の業績予想を達成すると現中計GLP2020の最終年度目標を1年前倒しでの実現となりますが、その場合、中計の見直しを行いますか？

A6: 現中計の見直しは行わず、次期中計を予定通り2021年4月に公表します。